

PHD LETTER

40

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

1991・9

初めてのカンボジア、緊張のビルマ	2・3P
フィリピン・ラダナツァーレポート	6・7P

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行: 財団法人PHD協会
編集人: 草 地 賢 一
住所: 〒650神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202
TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867
郵便振替: 神戸1-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会
定 価: 100円



インドネシア西スマトラ州アイルバンギス

スマトラの漁師町の朝の風景だ。
魚のカゴを運ぶお兄さんとお供の僕A。
学校へむかう僕Bともうひとりの僕Cはうしろから押してお手伝い。
エンジン付だところはいいかないよね。

草の根の人々を訪ねて

初めてのカンボジア

緊張のビルマ

例年3回程度にわけて訪問する旅を今年一度にまとめて実施しました。6月23日から9月6日まで。少々無理をしました。しかしそれぞれに大変興味のある同伴者が参加して下さいました。今回はその前半を報告したいと思います。

最初のフィリピン、ネグロスへの旅、スリランカのボヤワラーナ、タイのチェンマイ北部のボッケオ、ムシキー村までは毎日新聞大阪本社佐竹編集委員、チェンマイ、タイ東北部カラシン県、サイナワン農協協会は、尊敬する友人ジョン・マッキントシュ宣教師の末娘グインさんが同行されました。これら三カ国は帰国研修生のフォローアップおよび10月から11月の10周年記念事業に招待する方々の面接、さらに来年度研修生の選考が目的でした。

7月28日から8月12日までは、初めての研修生選考のため、カンボジアとビルマ(ミャンマー)を訪ねました。

この旅には本会終身維持会員の歯科医松崎さんか同行されました。73才のご高齢でしたか私を上回るお元気さで合計4カ所約500人の口腔診査をして下さいました。各地で本当に感謝されました。

さて今回のハイライトは何といっても初めて訪問したカンボジア、そして緊張の中にあるビルマでありました。

我々が空路プノンペンに到着した7月28日同じ機内に日本政府の外交官2人が同乗していました。複雑にからみあっていた日本と同国の外交の調整、そして大使館再開に向けての事務所開設の用件であろうと推察しています。プノンペン空港に降り立った時2台のテレビカメラが回され又写真機をもったジャーナリストも機に近づいてきました。同行の松崎さんが外交官と間違われ後日その写真を日本電波ニュースプノンペン支局長から手渡されるという笑い話も生まれました。

皆様既にご承知のように何回かカンボ

ジア国外で4派の代表が集まり国家の統一が協議されています。11月にはシアヌーク殿下も帰国予定とまで、同氏のパレスも改装が始まっていました。この混乱から和平への動きをプノンペンにあって3年半見続けてこられた世界教会協議会(WCC)カンボジアプログラム代表の山下政一さん(前アジア保健研修所事務局長)の出迎えを受け、それから一週間私達はプノンペンに滞在し、初めての研修生招請の為に動きまわりました。

WCCが取り組んでいたタケオ県パティエー郡チョンボク村を候補地として紹介され、前後3回村に足を運び郡長、村長等と協議し2人の候補者を選考しました。しかしこれらの人々が政府から出国許可、パスポートが得られるまでは最終決定になりません。村へ入る事は出来ても宿泊は許されない。又現在はまだ一党支配ということで政府のみならず党のスクリーニングも要る。300万人ともいわれるポルポト時代の大量殺人による人材不足の深刻さ等様々な混乱と低迷の要素をも大きい。しかもPHDが呼ぶのは草の根の農民。外務省、農業省の局長、副大臣などと接し、WCCの力添えを得て、結局農民1名、村で働く農業改良普及員レベルの役人1名を招くという大体の了承を得て、最後の調整はカウンターパートになって下さるWCCに依頼することになりました。

滞在中一日プノンペン市とその郊外を見学する機会が与えられました。何千と積み上げられた頭蓋骨、首をなぐり殺して半死半生の人々を放りこんだ幾つもの

穴。しかもその穴の中には無数の白骨がむき出し、また人々の衣類が風化しないまま土の中に埋まっていた。この他にプノンペン市内の学校が刑務所として使用され、その後記念館として公開されている場所も見学しました。とてもペンでは書けないそれはひどい残酷なものでした。案内をしてくれたWCCの女性職員2人ともこのポルポトの犠牲者を兄妹の中にもっており、二人とも強制労働の直接間接の経験者でした。彼らは言葉少なに「同じ民族を殺すような指導者の狂気は二度と繰り返してはならない」と言っていました。

カンボジアは平和に向かって今動いていると感じました。ある同宿のジャーナリストはプノンペンの町が、年々格段に美しくなり、人々の笑顔も戻りつつある。民族の和解も時と共に深まっていく事を信じたいと言っていました。しかしコンポンスプー県のおコギ村にある国内難民のキャンプを訪ねた時には、数週間前までゲリラの侵攻で混乱していたとのことでした。約1200世帯5千人余りの人々が避難しており、WCCも飲料水、学校等の教育施設及び保健等のための緊急援助活動を実施していました。

一進一退を繰り返しながら、カンボジアに平和が少しずつ回復されていくでしょう。日本のNGOも数団体が常駐し、平和回復のためへの奉仕を始めています。PHDも遅ればせながら我々のスタンスを維持しつつ参加していくことにしたいと思っていました。

カンボジアに戻りつつある確かな平和への手応えとは反対に、ビルマの滞在は緊張に満ちたものでした。

この原稿を書いている間も私の精神は平静さを失いがちです。具体的なことを書くのは該当する人々に迷惑がかかるのです。ここでは従って間接的な表現しか出来ません。

ラングーン(ヤンゴン)の町に到る所に軍の車、着剣をした兵士の姿が見えました。ガイドの説明では一切軍関係のものは撮影してはならないとのことカメラを構えるのに勇気がいりました。

物価はすべて生活必需品が高くなり、生活苦に民衆はあえいているようです。具体的にいくつかを紹介しましょう。米(50kg袋)は88年に256チャット(K)、91年352K、料理用油50K→120K、たまね



田植えをするチョンボク村の農民。

ぎ10K→16~20K、にんにく40K→120K、香辛料80K→900K、ピーナツ15K→30~40K、塩3K→8K、ブタ肉35K→120K、とり肉50K→170K、牛肉35K→100K、さとう30K→60K、ガソリン政府用1ガロン3.5K→16K、一般160K→180~200K。現在の通貨1米ドル→公定6.12K、政府、軍人は特別レートがあるとのことそれは30K~40K、ブラックマーケットでは80K~100K。

両替のレートがこれ程公定とヤミの間に開きがあるというのは驚きを越えあきれてしまいます。

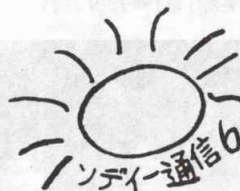
しかしその中でも民衆に奉仕するNGOは必死に頑張っていました。都市の貧困層への支援、農村開発活動でのリーダー養成あるいは身体の不自由な人々のための事業等々。

去る4月に日本政府が盲人のための教育活動視察に訪問した時、ビルマ政府はある民間の盲学校の学生50人を借り出してその視察団を迎えたと、当の学校を運営する事務局長から話を聞いた時には複雑な思いをもちました。

このように苦闘する民間NGOとの協力をPHDは、困難を乗り越えて進めねばならないことを痛感しました。

今回の訪問で何とかカウンターパートを決定し、通常の選考(必ず農村の活動地域を訪問し、村人とよく話し合って選考する)方法は許されなかったけれどビルマ第二の都市マンダレーから東へ2時間の地で10年地域開発を進めてきた38歳の農業指導者を選ぶことができました。彼も政府からのパスポートと出国許可が出た時点で改めて皆様を紹介したいと考えています。

短い6日間の滞在を終えてラングーン空港を飛び立った時の私の率直な感想は「ホッ」としたという一言につきま



3月に訪れた村メーサリアンから、先日新しい布が届きました。枚数に

すると、大小合わせて290枚！
村に伝わる模様、伝統的な織りを若い人にも伝えてね、難しい織りができる人は少ないというので、徐々にでも皆ができるようになるというね、と言いつつ残してきたツアーでしたが、箱を開けてみるとレギュラーのもの(46cm×3m)、無地のものは少なく、難しい織りのもの、小さなテーブルマットや敷物にできそうな大きさにはいたものがあ、いろいろと考えて織ったんだなあと、感激でいっぱいになりました。あの人が織ったかなと思うと、知らない人にはたかが布かもしれないのに、恋しい、いとし、そんな思いがします。

さて、ムシキー村からは、リーダーのベリポーさんが、いよいよ9月26日、来日します。現在決まってきた日程は、淡路(兵庫県)ー藤井寺(大阪府)ー倉吉(鳥取県)ー八鹿町(兵庫県)ー船橋・浦安・舞岡・東京(東京方面)ー豊中(大阪府)ー三木(兵庫県)ー神戸(記念式典)で、現在調整中です。

織りの実演と布の展示・即売、及び、布・染め・織り・カレン・タイ・アジアの国々といったお話で、交流会を持つ予定です。また、これ以外に滞在や観光をお願いできる方、大歓迎です。

各地での詳しい日時・内容については、事務所までお問合わせ下さい。

(ソディー担当)小松みち

総主事 草地賢一

私もちよっと 世界を斬る!

タイ語の代わりに 手話で交わる

大森和夫(大阪府池田市・団体役員)

恒例のタイ行き——今年3月ムシキ村へと第6回の旅立ちをした。何時ものごとく村で女子小・中学生の寄宿舎を運営し、また英語の先生のMs.TETEの所へワラジを脱いだ。Ms.TETEに以前教えた「手話」を、何気なく寄宿しているチビ共々に教えたところ爆発的に受け、

孫・曾孫弟子迄現れ、もっと教えろと本を覗き込んで来る有り様。項目は「嫌い」「好き」「上手な」「下手」「恋」「仕事」「勉強」etc。子供達が思いもかけずグ追ってきたのは、日本では考えられず驚かされた。「手話」の御陰で何時もはお互いに接近するのに時間が掛かっていたのにアツと言う間に心の壁は崩壊してしまった。朝から晩まで場所・時を問わず楽しい雰囲気か醸し出され、例えば「YOUはあの人が好きですか、結婚しますか」「あの方は遊んでいるが私は仕

事をしているので利口だ」とか、笑いの中の掛け合いの遣り取り。大人共がニヤニヤして見守る中、こちらは一人で多くのチビ共を相手に壮烈で、静かな白兵戦を展開して汗だく汗だくの呈。思いもかけぬ国際親善の展開でこちらはニンマリ。今でも彼女達の仕種が目につくが、次回は本腰を据えてしごいてやろうと考えている。

海外の人と交わる時に言葉が一つの壁になるのは事実だが、工夫すればいろいろと策はあるものだ。要はソノノ気だ。

研 修 生 レ ポ ー ト

8期生1班 フィリピン 比較研修報告

6月下旬の2週間、8期生のヘルベさん、レルさん、ネストールさんとフィリピンを訪ねました。1年間の研修プログラムの締めくくりとして、アジアの農村で地域組織化の活動を進めている現場で多くの実りある学びを深めることができました。今回の研修の中では、葉草づくりや手芸品づくりを実際に行ったり、村

の中に生きるローカルリーダーたちの家にホームステイして交流を深めながら有機農業を通じた農村の地域組織化を学んできました。帰国を目前にした3人は、日本シック(?)になりながらも、帰国後の自分の活動に生かせる、地域づくりの現場で、“村に帰ってがんばる”という決意を新たにしました。



村のお百姓さんからお米の伝統品種の作り方を教えてもらいました。レルさんはビールナッツを発見してニコリ。(フィリピン・ルソン島 ガバルドン村)

8期生2班+9期生 “新しい出会いの輪が広がりました”

ジャネットさん (フィリピン)

根雨保健所(鳥取・日野町)→聖テレジア幼稚園、鳥取女子短大付属幼稚園(鳥取・倉吉市)→篠山町保健センター、篠山町立城東保育園、篠山町立大芋保育園(兵庫・篠山町)→聖パウロ生石保育園、高砂市保健センター、いなみ野病院、あすなろ学園(兵庫・高砂市)→草生塾参加→福岡女学院短期大学夏期講座ゲスト参加→瀬加保育所、甘地南保育所、川辺南保育所、牛尾武博宅(兵庫・市川町)→キリスト教保育所同盟夏期保育大学参加→岩佐康子宅(兵庫・姫路市)

ジャネットさんの研修は、保育、保健というテーマです。6月から8月にかけての研修では今までにないネットワークでお世話になりました。鳥取県では、青年海外協力隊でフィリピン滞在経験もある笹間典典さんのお宅に滞在させていただき、地元の根雨保健所で研修を行いました。日本の高度な技術・設備に驚きながらもネグロスに役立つものを、ということで水質分析や、乳児と母親の世話に関心をもちました。このあとの鳥取県東部では保育の研修が中心になりました。6月中旬からは篠山町中央公民館の方々を中心となり研修を引き受けて下さいました。保健・保育の分野で、地域内での実践から学びを深めました。篠山町は



仕事の合間にほっとひと息いれるラニーさんとお母さん(兵庫・神戸市 渋谷さん宅)

ラニーさん (バプアニューギニア)

牛尾武博宅(兵庫・市川町)→渋谷富喜男宅、尾崎食品(兵庫・神戸市)→安達一博宅(兵庫・豊岡市)→ふえろう村塾(兵庫・小野市)→草生塾参加→福岡女学院短期大学夏期講座ゲスト参加→大森昌也宅(兵庫・和田山町)→しおかぜ学級交流会参加(兵庫・芦屋市)

PHD発足当時からのお付き合いですが、今回ホームステイを引き受けて下さった谷田さんや外岡さん、保健センターの田辺さんはじめ、色々な方々との、女性ならではの交流の輪が広がりました。彼女の料理の腕前は大了たもので各地でフィリピン料理愛好者が増えています。

続いて7月に高砂ボランティア連絡会のネットワークの中で研修を行いました。PHDのツアーでフィリピンを訪ねて下さった水野さん、事務局の西村さんはじめ多くの方々の骨折りて、保育、保健にとどまらず日本の福祉活動の現場にも触れることができました。この時期、日本の保育・保健の現状をオリエンテーションを兼ね、研修させていただいていますが、後半の本格的な研修に向け、課題が彼女の中で具体的になりつつあるようです。



保育所の子供たちに囲まれてごきげんのジャネットさん(鳥取・倉吉市 聖テレジア保育園)

ヘルベさんのまな弟子のラニーさんはヘルベさん顔まけの勉強熱心さと女性ならではの心遣いで、研修を引き受けて下さった農家の方々からは、大歓迎を受けています。この時期、農業を中心に研修を続けていますが、神戸市内で王子動物園から出た糞を堆肥化し、野菜づくりを中心に有機農業を手がける渋谷さんのお宅では初めてのPHD研修生受け入れてました。

彼女の素朴な人柄がネットワークの輪を広げてくれました。消費者のお母さん達との出会いも、都市の消費者とお百姓さんの提携の現場を見ることができ、たいへん印象深かったようです。今後は堆肥づくり、お米、野菜づくりが彼女のテーマです。

“あなたもアジアの人々と一緒に日本のお百姓さんを訪ねてみませんか”

サウエーさん (タイ)

渡辺省悟宅(兵庫・丹南町)→岡岡史郎宅(兵庫・福崎町)→山田芳弘宅(兵庫・社町)→ふえろう村塾(兵庫・小野市)→草生塾参加→吉田吉彦宅(兵庫・氷上町)→枝打旗参加→能勢農場(大阪・能勢町)

ナンダナさん (スリランカ)

三谷康氏(兵庫・黒田庄町)→藤本敏孝宅・森野英樹宅(兵庫・加美町)→青位真一郎宅(兵庫・八千代町)→ふえろう村塾(兵庫・小野市)→加古川市立志方中学校交流会参加→草生塾参加→吉田吉彦宅(兵庫・氷上町)→久保賢一宅(和歌山・南部川村)

リーさん (韓国)

ふえろう村塾(兵庫・小野市)→草生塾参加→西日本研修旅行参加→枝打旗参加→能勢農場(大阪・能勢町)

サウエーさんはタイ東北部でサンコムさん、バムルンさんたちとグループを作り協同で養豚を行っています。ナンダナさんは、スリランカでやはりアジヤンタさんが帰国後つくった農業のグループのメンバーです。2人はグループからの課題をもって研修に取り組んでいますが、これまでの研修の中からサウエーさんは堆肥づくり、家畜の飼料配合、ナンダナさんは米づくり、堆肥づくり、農機具のメンテナンスというテーマがでてきました。今後、9月に行く韓国比較研修から帰ってきてこうしたテーマに沿って、より深くつこんだ研修を行う予定です。

リーさんは普段事務所でPHDの業務に精を出しながら、PHDの運営の中から実践的なグループづくりのヒントを得ています。7月に他の研修生と共に滞在させていただいたふえろう村や、8月に訪ねた能勢農場といった有機農業共同体での実習は、帰国後の活動にたくさんのヒントがあったと話してくれました。8月上旬の西日本研修旅行では水保、筑豊、長崎をサムスアリスさんやボランティアの人々と共に訪ね、引率役として実力を発揮しました。犬養先生(筑豊)や中村先生(長崎)を始め、多くのリーダーの方々



マチとムラの交流の一コマサウエーさん、ナンダナさん、ニコリ、吉田さんご一家、大阪の井原さんご一家と神戸の平野さん(兵庫・氷上町 吉田さん宅)

の地域に根ざした実践にもたくさんの学びを得たようでした。

こうした研修生の滞在先のお百姓さんの家を訪ねて下さるPHDのボランティアの方々も昨年頃から増えてきました。我々の活動の目的がアジア・南太平洋の人々との交流・連帯にとどまらず、日本国内のマチとムラの人々が交流していく中で、今の我々の生活のあり方を考え直していくきっかけづくりですから、嬉しいことです。今回のサウエーさん、ナンダナさんが研修させていただいた氷上町の吉田さんのお宅には、大阪の井原さんご一家と神戸の平野さんが訪ねて下さいました。まずは出会うことから、ということとそのあとの展開を楽しみにしています。

こうした日本のムラに生きていらっしゃる方々の現場を訪ねてみたいという方は、PHDの中尾までお問合わせ下さい。研修生と一緒に出会いの輪を広げましょう。

研修生短信

- 7期生ドミーさん(フィリピン・農業) 団体の推薦で、今大学に通っています。
- 6期生ベディさん(インドネシア・漁業) 結婚しました、とファイジンさんより手紙来ました。
- 3期生ブリチャーさん(タイ・農業) 念願の自分の家、完成。

サムスアリスさん (インドネシア)

香住高等学校水産科(兵庫・香住町)→生穂漁業協同組合、柴宇海産物株式会社(兵庫・津名町)→草生塾参加→西日本研修旅行参加→田子遠洋漁業協同組合(静岡・西伊豆町)

淡路島津名町での研修はPHDとして初の研修地域でした。地元で魚の加工を手がける柴田さんは、個人的にアジアか



ちりめん加工に取り組むサムスアリスさん(兵庫・津名町 柴宇海産物株式会社)

フィリピン・ラグナツアーレポート

5月23日から27日にかけて、第1・2期のフィリピンの研修生に会いに、マニラの南に位置するラグナの村を訪ねてきました。マミムメセッションの1つとしてのこのツアーには、組合職員の水野道子さん(高砂市)、長期充電中の樋口雅一さん(芦屋市)、大学生の宮内恵里子さん(伊丹市)、リト君の研修指導家庭の大学生、溝口恒平さん(兵庫県篠山町)が参加しました。研修生との出会いに加え、フィリピンのさまざまな状況を見てきました。

本当の援助とは

水野道子

マニラに着いてまず最初に出会ったのがストリートチルドレンと呼ばれる子供達。信号で止まる車の窓に顔を寄せ、手を差し入れてくる子供達。聞いていたもののどう対応しているのか、思わず戸惑ってしまいました。

研修生との交流や、人々が地域で抱える問題等、フィリピンの村の声を聞く機会を得られた。時給5ペソ(1ペソ=約5円)で働く若い女工さん達と1部5ペソで売られていた新聞が重なり合っ

ものである。カラバルゾン計画に反対する地域の草の根市民団体の事務所では、ボランティアだというあついまなざしの大学生が、ていねいに説明してくれた。そして彼は、日本のODA(政府開発援助)についてもっと考えて欲しいと訴えた。アジアにおいて日本は援助とか支援と言った名のもとで何をしているのか。支援は企業のお金もうけの手段と化し、本当の意味で、そこに暮らす人々にとっての援助になっているのだろうか?私達は、自然と調和する中で暮らしを人類創始から大切にしてきたはずである。ところが現在、自然を超越し、征服しようとして(人間にとっての利益のみを追求しようとして)過度な開発を地球のどこやかして行ってきた。その結果、森林破壊や酸性雨などといった言葉が叫ばれるようになってきた。人間が私達に必要な最低限の中で、自然との共存をもっと深く見つめていたなら、私達今日の地球の、そして全人類の危機を叫ばなくてはならない状況を招くことにはならなかったのではないだろうか。

私達はお金とひきかえに多くの大切な

人にとってでなくては本当の支援や援助にはならず、支配や植民地化の道へ歩むことを私達は気づかなくてはならないと思う。お互いが大切にされ合う気持ちの良い生き方を求めて帰国した今、そしてこれから地域に根ざし自分にできることからちよつとずつでも何かやれることをやり続けていかなくてはと思ひながら、むし暑い陽射しの外を時折り見つめ、クーラーのかかる事務所で相変わらず仕事机の書類の山に囲まれている。しかし頭の中だけではなく、身体ごと感じる事がどれ程身も心も動かすことができることか…。私にできることはとても小さいことだけれど、自分の目と心で感じたことをどれだけ多くの人たち(そして子供たち)に伝えていくことができるか。彼らが自分も“行ってみたい!”と思ったら私の役目の一つは達成したことになると言えるのではないだろうか。

己の歪みに気付くワタシ

樋口雅一

空港からパサイのバスターミナルに直行し、そこからバスでラグナに入る。そして側車付原付(トライシクル)1台にみんな乗り換え、タグンパイ村へ。白い立派な建物に到着。第1期研修生リトさんの実家。お姉さんが出嫁して建て替えたという。ふと聴き覚えのある音楽が聞こえる。日本では「最後の言い訳」。

こちらでは「IKAW PA RIN」。テッド=イトウという日本人がタガログ語で歌い流行させたそうだ。村でも街でもよく流れていた。

ラディン(1期研修生)さんか働く養殖池の端の家でも一泊した。ヤシの木で囲まれた養殖池で釣りをする。そうしているうちに、茜色の夕焼雲が現われ、リトさんが作る鶏肉料理とラディンさんが焼く魚の香りが漂って来る。時間がゆったりと流れる。

予定した4人の元研修生達に会う事ができた。PHDの10年の歴史と10年前の開拓期の姿を垣間見る事ができたように思う。

村からマニラに入り一泊。夜のエルミタを散策した。ここには観光客向のアルコールをだす店が集中している。きけば



研修生とツアー参加者の団らんの一コマ。

い浮かべられる。マニラ南西地域開発計画であるカラバルゾン計画。農地から工業団地への転換(=工業化)。ラグナ湖堰堤計画による湖の淡水化。これは湖の生態系に影響する大問題である。そしてそこに暮らし、生活している人々の命にも影響を及ぼす

ものを失ってきたのではないだろうか。地域で地域の人々がどういった生活を大切に、どのような生き方を求めつくりあげていくか、もう一度みつめなおさなくてはならないのではないだろうか。支援や援助が、支援する側・援助する側にとってどうではなくて、それらを求める

このあたりの店の飲物一杯は、村の男の日に相当するという。

最終日、下町の商店街とスモーカーマウンテンの見学。ゴミの山をガサガサ登っていくと子供達が見えるものや金属くずを拾い集めている。

農村もスラムもどちらも貧しい。でもどちらも限られた厳しい国情の中で陽気に楽しくやっている。この地の人たちの人柄なのだろうか。だが、農村の方は、一番大切なもの「自然」と共生している

からであろうか、安堵感がある。対比し、スラムの方は利根的に感じた。何か私に似ている。でも、どちらも明日を思い煩うようには見受けられなかった。

私は自然から離れて生きて来て、随分歪んでしまったように感じている。それに気付いた時、既に遅く完全には自然にはなれない。自然に生きるのが非打算的に思え、二の足を踏んでしまう。これは一連のPHDとの関わりでつくづく感じて来た。PHD運動に満腔の敬意を表し



スモーカーマウンテンにて。

ます。自然になろうとすると様々な都市の呪縛に阻まれる。家族、子供、結婚、付合い、利害、世間体、老後、収入、体力等々、枚挙に暇がない。

「一番近くにいってもわかり合えない…一番大事なものが一番遠くへ行くよ…」(IKAW PA RIN)

こんなんちがうやろ!

宮内恵里子

日本の生活は便利です。ファミコンもコンビニもあります。スゴイです。だけどダイエットして病気になったり、働きすぎて死んでしまったり、何か変です。「うまい!はやい!やすい!」なんてことが、本当の豊かさと言えるのでしょうか?

フィリピンはこれからの国です。しかし、ヤミクモに「早く日本のように…」などとは言えませんね。日本の成功、そして失敗をまず私達が知らなければ。フィリピンの人々にとっての豊かさとは何かを考えなければ。そうして、フィリピンらしい発展のための協力をしたいものです。日本の二の舞はもうたくさんです。

ラグナ湖に注ぐ川が、工場廃水で汚染されているのを見ながら、「こんなんちがうやろう…」と思っていました。

PHD NEWS

〈すみません、年末ツアーはほぼ一杯〉

〈第5期関西NGO大学〉

〈会費・ご寄附寄託状況〉

1991年	5月	171件	2,080,157円
	6月	158件	2,057,658円
	7月	118件	2,159,236円
		447件	6,297,051円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴致しました。ご協力いただき、深く感謝申し上げます。

〈オリジナル・トレーナー〉

秋になりました。Tシャツに続いてはやっぱりトレーナー。90年版と同じで色を新しくします。Tシャツも続行中。

トレーナー	M・L 色/調整中	¥3,500
	90年版は、ダークグレー・グレー・サーモンピンク・マスタードの4色です。	
Tシャツ	M・L(白地) 110cm-150cm	¥2,000 ¥1,500

ここ数年恒例となったタイスタディーツアー、春から問合せが相つぎ、残席わずか。キャンセル待ち覚悟でお申し込み下さい。

日程 91年12月22日-92年1月1日
10泊11日
コース 大阪-バンコク-東北タイ-北タイ・カレンの村-チェンマイ-大阪
費用 約18万円 定員 14人

東北タイの村にワラヤ、サンコムさん北タイの村にコマ、ウィラト、プリチャーさんたちを訪ね、村の生活を体験します。

〈カメラ・ありがとう〉

横原み様よりカメラを送っていただきました。ありがとうございます。掲載が遅くなりました。ごめんなさい。

〈'91東日本の研修旅行〉

今年は、10周年のマミムメセッションが11月3日の記念式典までつまっていて、スケジュールが変わります。例年行っているような東日本研修旅行は残念ながらありません。詳しくはお問い合わせを。

〜第三世界理解講座〜

第1回	9/28-29	講師 長峯晴夫他
第2回	10/19-20	講師 池住義憲
第3回	11/9-10	講師 蔵田雅彦他
第4回	11/30-12/1	講師 山下政一他
第5回	92.1/15	講師 宇井純他
第6回	2/15-16	講師 松井やより他

各回1日目 19:00-2日目 16:00
全期間受講料 1万円。食・泊実費 定員40名

主催 関西国際協力協議会
申込書、パンフレットを用意しています。ご請求下さい。

〈PHDへとコンサートをチャリティーで〉

去る5月に三木緑が丘で行った「歓迎ますがアジア」が縁で、スタジオ遊で「アンサンブル・エレガント」のチャリティーコンサートが7月9日ありました。チェロやフルートの演奏からピアノに合わせた歌、そしておいしい茶葉にPHDの紹介をちょっと加えさせていただきました。エッセンスになったでしょうか。

○月×日のPHD

総主事・草地 今年は秋に国内行事が集中するため夏にかためて海外出張。時折出先から連絡が入るが、大変お元気。日本にいるより空気が合う様子。

主事・藤野 10周年マミムメセッションを20ちかく終え、各行事実施先、参加ボランティアの積極的参画に大感謝。それにしても男性陣の参加が少ないとタメ息。

主事補・中尾 昼飯時、食堂に行く道で研修生に同行し、豚の屠殺に立ちあつたことを克明に報告、そして大盛りを注文。激務に耐える体力養成を实践。

囑託・小松 ジャネット、ラニー両嬢の研修生に付きそって、福岡女学院短大の合宿に。新幹線で神戸を予定通り発つものの途中台風の影響でストップ。嵐を呼ぶ女と呼ばれることに。

囑託・延安 専門学校からの企業実習生を迎えているせいか、いつもに比して、言葉遣いなどが上品になり、すっかり尼崎のお嬢様。そういえば近々、お見合があるとかないとか。

愛知県の日本福祉大学の野畑嬢以下3名、マミムメセッションの枝打族に引続き草の根生活塾にも遠路参加。交通費分以上の見返りを得てもらった様で良かった、良かった。

就職活動中のマミムメセッション主力メンバーボツボツとその結果が。菊池嬢、鶴田嬢おめでとう。祈健闘は安藤嬢、鬼塚嬢、児島少年。

前号 ○月×日登場の樋口雅一さん、草の根生活塾のゲーム中、熱心さのあまり転倒、入院。一番暑い時期に冷房完備、きれいな看護婦さんに囲まれ静養中。



編集後記

私達は、7月24日～28日までの4泊5日を丹波篠山で行われた草の根生活塾に参加しました。最初はびっくりすることが多くて、「4泊5日もやっていけるのかなあ」と心配でしたが、元気で人なつっこい子供達とたよりがいのあるスタッフや職員の人達のおかげで、楽しく過ご

すことが出来ました。研修生との出会いや農作業などを体験させてもらったのは毎日の生活を見直すのにいい機会になりました。町には物があふれていて、食べ物もスーパーに山のように積まれているし、その食物は一体どこから来るのだろうか？そんなことはこの農作業を体験していなかったら考えもしなかっただろうと思います。このレターを読んで下さっている皆さんにも一度体験してもらったらてっとりばやいのですが、まずはレタ

一の記事から少しでも感じてもらえたらと思います。今回も増刊号でマミムメセッションのレポートを満載。私達も草生活塾の余韻をもってレターの編集にも加わりました。事務所の気分を少しでも伝えられたらと思います。

ふー&みかりん 合作

〈編集メンバー〉

伊藤洋子 柿原登志夫 川那辺裕子 金城さち恵
国賀麻知 児島章一 芝美代子 清水史子
田辺智子 渡辺美香

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。